

2022年3月期 第1四半期決算説明(電話会議) Q&A サマリー

Q: 機器 1Q業績

A: ここ数年間、東北工場をはじめとした設備投資を行いながら生産性改善に取り組んできたことと、市場環境の追い風を受けて生産工場の稼働率が上がってきたことが、今回の良い業績に反映されたと考えております。

Q: 機器 空気圧機器 1Q業績

A: 空気圧機器の売上高は、国内・海外ともに前4Qから伸びております。特に東アジアにおける中国市場が活況でした。

Q: 国内の東北、春日井、四日市工場と海外のCKD中国工場の現在の状況

A: いずれの工場も前4Q時点から稼働は上がってきております。東北工場は、需要増加を受けて稼働が上がってきております。春日井工場の稼働は高い水準が続いております。空気圧機器を生産している四日市工場も、中国市場の需要が旺盛なため高い水準が続いております。CKD中国工場も同様に高い稼働状況です。

Q: 機器 生産対応の状況

A: 人の確保については、稼働が高いラインでは、人の手当てをして生産をしております。部材調達については、一部の部材で多少苦労している面もございますが、現状、生産に大きな影響はでておりません。商品のリードタイムについては、需要が高水準なため、一部の商品はお客様と調整しながら進めております。

Q: 材料費高騰の影響

A: 材料価格は上昇傾向です。今のところ大きなコスト影響は出ておりません。今後も一部部材はひっ迫し、価格の上昇傾向は続く可能性がございますので注視してまいります。

Q: 機器 海外 東アジアの需要環境

A: 東アジア全体の需要は強く、その中で半導体や二次電池市場向けの需要が引き続き強いとみております。

Q: 半導体設備投資の見通し

A: 前期に引き続き、今期も順調に推移するとみております。ロジックは堅調、メモリーも本格的に回復して継続した投資が見込まれております。

Q: 機器 修正予想の考え方 上期予想対比で下期予想を下げている理由

A: 慎重にみております。下期に向けて納期対応などのリスクがあるとみており、当社も多少遅れが発生しておりますので対応に努めております。ただし、機器の受注状況からすると下期も実需は強いとみております。

Q: CKD中国工場 生産増強

A: 現在、検討し進めております。中国市場における設備の自動化や省人化の需要の高まりに対応し、ダイレクトドライブモーターなどの機器をさらに生産対応できるようラインを増やしております。

Q:自動機 今期受注予想

A:上期と下期のバランスを期初予想から変更したのは、受注のタイミングによるものです。

Q:自動機 新分野の強化 透明体検査装置

A:自動機の薬品包装機では透明の樹脂フィルムや錠剤の割れや欠けなどを検査しますが、その技術を応用して、例えばガラスなどの世の中にある透明体を自動検査する装置を開発・発売いたしました。弊社で特殊な光源を利用して透明体の穴あきや割れを自動で検査できる装置となります。